

# 島の生活は全員の知恵と輪から

伊島漁協婦人部  
部長 神野鈴代

## 1 地域の概要

徳島県阿南市の伊島は四国の最東端蒲生田岬と和歌山県日の岬が接する線上にあり、蒲生田岬より東へ約6kmの紀伊水道上に位置しており、伊島・前島・棚子島の三島で形成されている。世帯数88戸、人口219人、漁家率70%の小さな島である。

## 2 漁業の概要

伊島周辺漁場は、内海水と黒潮分支流の接点にあり天然の好漁礁及び人口礁の設置により、徳島県屈指の好漁場となっている。素もぐりによるあわび漁を主とし、季節により磯刺網による伊勢えび漁や一本釣り、延縄漁などを営んでいる。

## 3 研究グループの組織と運営

婦人部は昭和30年に結成され、現在部員数は50名である。これは高齢化によって部員が減少しないように5年前に70歳定年制を設けた結果で、部員構成は28歳から70歳、平均年齢は51歳である。役員は、部長1名、副部長2名、連絡員4名で組織されている。

主な取り組みは、漁家一般家庭への情報伝達、貯蓄や共済の推進、伊島町の清掃、焼却施設の管理など奉仕活動を行っている。

また、阿南市那賀川町の9漁協婦人部で組織している阿南地区漁村生活改善推進連絡会に所属し、関係機関・団体との連携、情報交換と漁家生活の改善に取り組んでいる。

## 4 研究、実践活動課題選定の動機

伊島は、離島であるため行政によるゴミ収集サービスが受けられない状況にある。燃やせるゴミは島内の焼却場で週三日間を焼く日と決め毎月最後の日曜日に3人一組になり交代で焼却場の掃除をしていた。

また、昭和60年頃から釣り客や観光客が多くなり、浜の汚れが目立つようになってきたため、月に一回、全員総出で浜の掃除をしてゴミを分別し、カン・ビンなどを美島丸に乗せて阿南市に搬送している。

このように環境問題へ島民全員で取り組んでいる伊島で、平成10年度からは2年間、漁村生活改善推進事業を実施した。初年度は漁業と生活のアンケート調査を漁協婦人部全員を対象に、27項目について調査した。

そこでこの調査を基に、伊島で一番困っていることや、婦人部が取り組める問題につい

て推進会議で検討し、「特産品を利用しての商品開発事業」、「生ゴミ処理に関する事業」、「きれいな海辺の保存事業」の3つを柱にして活動計画を立てた。

## 5 研究実践活動の状況及び成果

### 1) 特産品を利用しての商品開発事業

海部郡穴喰町の竹が島で行った研修で穴喰漁協婦人部が特産品開発の取り組みに力を注いでいる姿を目の当たりにし、伊島漁協婦人部も伊島の特産品づくりに対して情熱を持って取り組む必要性を再確認した。

そこで、県の水産課に大型加工機の導入を要望し、シール機、大型炊飯器、大鍋等を購入し、天然わかめ、岩のりの佃煮、山に自生しているツワブキなどの加工製品を試作し、品質保持期限の決め方の記録を取ったり、味付けの研究をして、商品開発を行った。

### 2) 生ゴミ処理に関する事業

アンケートの中で、住民自らが、生ゴミをスーパーのレジ袋に入れて海の中に投げ捨てて海を汚しているとの指摘もあった。そして住民がゴミ問題を真剣に考えるようになったきっかけは、男性達の「今までたくさんアワビやサザエなどが採れていた場所に生ゴミがヘドロのようになって、エサになる海草がなくなった」という言葉だった。釣り客や観光客だけでなく、自分たちの手で漁場を少しずつなくしていることに初めて気がつき、まず海上投棄をやめるよう島民全員に声をかけ、畑のある人はコンポストの利用や穴を掘って埋めるよう話し合いを行った。そして「生ゴミ処理機」を一般家庭に普及させている先進町村に行き、一般家庭の生ゴミ処理機の設置状況やその性能について研修を行った。そして阿南市からの補助金制度と婦人部の積立金からの補助を付けて、町内の80%の家が生ゴミ処理機を設置することが出来るようになった。今まで海の中に捨てられていた生ゴミもなくなり、昔のような漁場が変わることと確信している。

### 3) きれいな海浜の保存事業

#### ①海浜美化活動

生ゴミ処理機の導入と同じ頃に、徳島県の漁業士会の活動として、海岸線の美化運動をボランティア団体とタイアップして伊島で実施することとなり、「ささゆりの島クリーンアップ作戦」と銘打った清掃活動を、伊島の僧渡ヶ浜で行った。婦人部も志を同じくするものとして約150名のボランティアとともに清掃活動を行い、ビニールやプラスチック系の腐食性ゴミを中心に約700袋を回収した。漁船に山積みされたゴミ収集の後、漁協婦人部が伊島のもてなし料理である伊勢エビのみそ汁や魚介類のバーベキューで接待し、ボランティアの人たちと一日を楽しく過ごした。

#### ②生活改善資金の利用で衛生施設改善

平成11年度からは海を汚さないということで取り組んでいた下水処理施設の工事がはじまり、水洗トイレへ改善することが可能になった。そこでトイレの水洗化に対しての全戸の改善希望調査を行い、徳島県の沿岸漁業改善資金の生活改善資金を24戸が利用することになり、現在は各戸が水洗トイレに改善され、快適に使用している。現在は町全体の70%の普及となっている。

#### ③花いっぱい運動

環境づくりの一環として「花いっぱい運動」に積極的に取り組んでいる。可憐で美しい

花、伊島にだけ自生する「伊島ササユリ」を守ろうと伊島中学校が取り組んでいる保護育成活動に協力して自生地周辺の雑木の枝打ちや下草刈りをしている。

また、花苗を一シーズンに植えるとともに、種を取ったり、挿し木で増やしたりして、島を花いっぱいにしようと空き地や、道ばたで育てている。

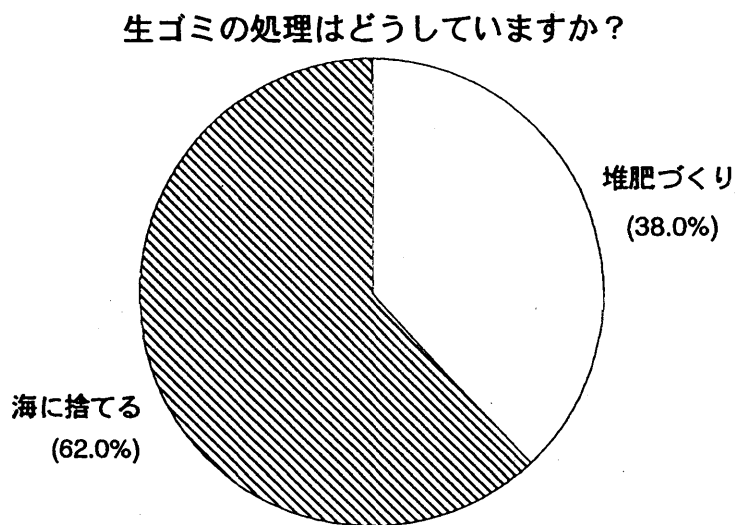
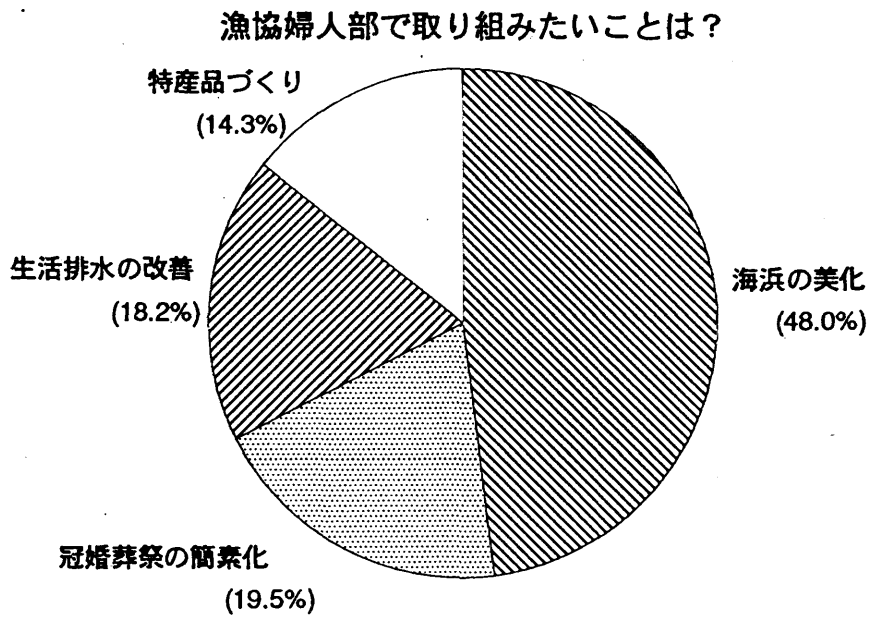
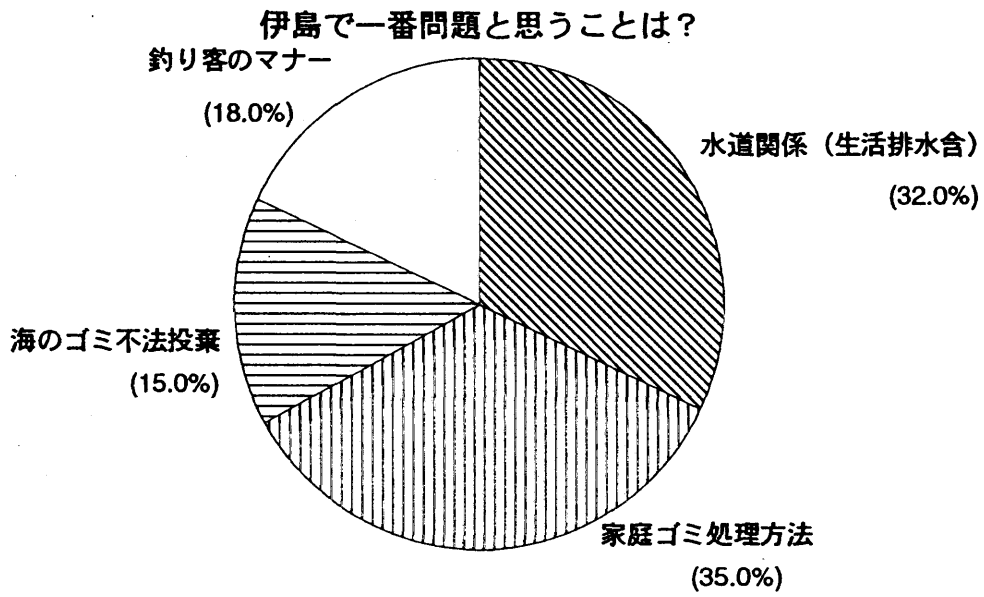
## 6 波及効果

環境に関する課題を取り上げて婦人部が取り組んだ事業や活動のすべては、婦人部全員の話し合いと知恵の輪から得た成果の一つである。伊島漁協婦人部で取り組んできた活動が少しずつ他の地域にも波及し、阿南那賀地区で組織する漁家教室で魚食の普及や海の環境を守る活動を話し合うようになった。

## 7 今後の課題や計画と問題点

近年の漁獲高の減少と長引く魚価の低迷で、漁家の所得が厳しい状況であるため、漁協婦人部が特産品を利用した商品開発を成功させ、漁家収益のひとつの柱となるべく頑張っていきたい。また、島内の遊休畑を利用して農産物の生産・販売が出来るように、生きがいと収益向上につながるよう研修をしていきたいと考えている。

さらに、次代に美しい海を継承するために生活雑排水の正しい処理の学習等伊島業婦人部は頑張りますので関係機関のご指導をお願いします。



## 伊島漁協婦人部年間行事計画

4月	総会
5月	町内一斉大掃除 阿南地区漁村生活改善推進連絡会総会
6月	老人食事サービス 水難救助訓練
7月	第二ダム下の草刈り
8月	梅畑草刈り 漁家先進地視察研修会
9月	町内運動会
10月	敬老会 漁家教室（魚食普及講習会）
12月	漁家教室（正月の寄せ植え講習会）
1月	農作業快適化フォーラム 少年防火クラブ慰労会